

## 第1回「SPring-8長尺アンジュレータ検討WG」議事メモ

日時：平成28年6月30日（金）13：30—16：40

場所：物性研究所5階554室

出席者：大橋（SP8）、尾嶋、柿崎、辛、藤森、藤澤

1. SPring-8に設置する長尺アンジュレータの仕様について、藤澤氏から計算結果（第0次案）をもとにして説明があり、円偏光アンジュレータ提案の妥当性などについて検討した。

2. 大橋氏からSPring-8のアンジュレータの種類とその特性、アンジュレータビームラインの現状と将来計画等について説明があった。

3. 1、2の説明をもとに、今後建設すべきアンジュレータについて検討した。以下のようない意見があった。

- 東大アウトステーションの目玉となるサイエンスを実現できるビームラインを建設することが大切だ。

- 光電子分光、発光分光で精度と分解能を極めることが一つの方向だ。また、時間分解分光がこれから発展するのではないか。

- 現在の利用者の動向を考えると直線偏光アンジュレータの需要が大きい。

- 8の字アンジュレータでは、長尺の特徴を十分生かせないのではないか。

- コヒーレンスの実験を考えるなら、30mの長さはかならずしも必要ない。

- 30mの長さを利用して短バンチビーム、ラウンドビームなどが可能か調べる必要がある。

- 光学素子への熱負荷の軽減と、SPring-8のアンジュレータビームラインの構成を考えて、2-3 KeVに中心エネルギーを持つアンジュレータを考えてはどうか。その場合、低エネルギーは300-400 eV程度になる。

4. 大橋氏から、アンジュレータ建設に関するスケジュールなどについて説明があり、今後の議論の進め方等について意見交換した。

- 平成19年度の予算で建設をスタートした場合、19年度中に設計・発注、20年冬あるいは21年夏に設置ということになる。21年夏設置と考えるのが妥当。

- 建設後できるだけ早い時期に研究成果が出るように、アンジュレータ、分光光学系、実験設備の建設スケジュールを考える必要がある。

次回は、若手研究者にも参加を呼びかけて検討することとした。